

2003.6.19 比較現代日本論研究演習 I (田中重人)

第10回「クロス表の書きかた」

1. 他人に見せる表
2. 表と図のあつかい
3. 表の書きかた

【他人に見せる表】

- 資料としての表…データを詳細に再現したものがよい
- プレゼンテーション用の表…
わかりやすく情報を圧縮する
→どう圧縮するかがセンスの見せどころ

【他人に見せられない表】

★ セル数が多すぎて周辺度数が偏っているもの

期待度数が 5 未満のセルがあると、

V 係数は無意味

→適切なカテゴリー統合を行う必要

※資料としての意味はまた別である

- ★ カテゴリーの並び順や行列のくみあわせをわかりやすく
- ★ 変数とカテゴリーの命名
- ★ 表のタイトル

【表と図】

表 (table) …活字と罫線で
行列型に組む。

図 (figure) …活字・罫線以外の
要素を含む。グラフのほか、
概念図や写真を使うことも

【表と図の約束ごと】

- ★ 「表 1」「図 1」のように
それぞれ通し番号をつけて参照
- ★ 表のタイトルは上、
図のタイトルは下
- ★ 「それだけでわかる」ように

【表に書くべき要素】

- 各セルの行(列)%
- 行(列)合計の度数と「100.0%」
- 列(行)合計の%
- 全体の度数
- Cramer の V (または ϕ)
- 欠損数とその原因

- ★ 行→列の因果を想定するのがふつうだが、列→行でもよい。(％の「100.0」で区別)
- ★ 全度数が 1000 人以下であれば、％は小数第 1 位まで
- ★ V や ϕ などの係数は小数第 3 位まで
- ★ 2 列表の場合は 1 列の％だけ示してもよい
- ★ 統計的検定をした場合は、その結果も

- ★ 縦罫線はなるべく引かない
- ★ 文字列は左揃え、数字は小数点揃えが基本
- ★ タイトル、表本体、注釈を読めば
それだけでわかるように書く
→ タイトルと行・列頭の見出し (heading)
を工夫する